

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

※講師紹介は、前ページに記載

《講義概要》

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、前期の中間総括として、音楽と著作権についての講義を行った。

まず、本講座の大きなテーマのひとつである著作権について、著作権チャートの資料や著作者・著作権者に関するサイトを提示しながら詳しく説明した。著作権の定義や歴史、関連する条約等について解説し、今後の音楽エンタテインメントを考える上で重要なポイントを示した。また、音楽著作権の管理システムに関連して、JASRACの事業概要や使用料徴収額の内訳等について解説し、インタラクティブ配信の動向やネットワーク上での音楽の適性利用に向けたJASRACの活動についてなど幅広い知識を学生に与えた。

引き続き、著作権のお金の流れに関する詳細な資料を提示し、実態の見えにくい著作権・著作隣接権使用料の流れや私的録音録画補償金の流れについて分かりやすく説明した。

最後に、本日の講義内容を常に念頭に置いて、後半の講義を受講するよう促した。



《受講生の感想》

●著作隣接権は初めて聞く言葉で、作詞家や作曲家だけでなく、実演家やレコード製作者、放送事業者にも権利があることがわかり驚きました。今まで「消費者」という立場でしかなかったために、著作権について深く考えることがありませんでした。しかし、著作権はそもそも文学・映画・音楽などの芸術文化活動が活発に行われるためのものであり、それは私たちになくしてはならない存在であることをもう一度見つめ直す必要があると思いました。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●著作権のお金の流れを知り、CDについてはアーティストには1%しか支払われないことに驚きました。いかに流通などに費用がかかるのか、宣伝などにも重点がおかれているのかが分かった。また、私的録音補償金については、問題が多く、作曲家への支払いは確保されなければならないと強く感じた。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

●ニコニコ動画やYoutubeなどの動画共有サイトにおいて、規制される動画と規制されない動画の境界が曖昧になっているように私は思う。利用者や動画の数が膨大になっているため、全てをチェックし、規制することは難しいかもしれないが、これからますます発展していくであろう、ネット文化における音楽、著作権問題に対して、何らかの指針を示すことが必要だと感じた。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●違法ダウンロードなどの行為は作者が一生懸命作った作品の価値まで下げてしまう。今日先生がおっしゃっていた、「著作権の最大の存在理由は、芸術文化活動が活発に行われるための土壌を作ること」という言葉はその意味でも著作権の本質についていると思う。今日は著作権について再認識することができて本当によかった。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●私は映像学部にも所属していることもあり、普段から権利について気にしながら制作をしているため、今回の授業は今後の制作活動に活かしていきたい。中間地点の今日、改めて権利について学べたことはデジタル・ネット文化への理解を深めるためにとても良い機会になったと思う。

立命館大学・映像学部・4 回生

●著作権の現在に至るまでの歴史的背景が非常に興味深いと思いました。現在の著作権はこれまでの日本のコンテンツ文化の変化が大きく影響しており、これからも著作権の仕組みはどんどん変えられていくと思います。消費者の立場だけでなく、著作権に関して客観的な視点で考える必要があると感じました。

立命館大学・映像学部・3 回生

●私は映像学部にも所属していて、映画をはじめ音楽などのコンテンツ、著作物を作る側でもあり、著作権というものはとても身近なのですが、今回の講義のようにJASRACや音楽に特化した著作権をテーマに学んだことはなかったので、とても良い勉強になりました。

立命館大学・映像学部・3 回生

●法学部における学習で、著作権についても触れたことはありましたが、今回は特に音楽に焦点を当てる形で講義をしていただき、自身も音楽、およびそれを使用するための媒体の利用者としての権利主体者である自覚を再認識させられました。

立命館大学・法学部・1 回生

●これまでの各講師からパズルのように各々の専門分野についていただいたお話を、まとめ、体系的に理解することが出来て良かった。また、日本の「著作権」のあり方は過渡期にあるといわれる中で、著作権について理解を深めることの重要性を改めて感じた。

立命館大学・法学部・3 回生

●今まで知らなかった日本や世界の著作権の歩みを知ることが出来てよかった。これからも様々な講師の方が来てくれる中で、著作権と著作権者の違い等をはっきりと理解しておきたいと思った。また、日本の音楽を海外に売り出すことは難しいと感じていたが、「ドラゴンボール」のようなポップカルチャーが売れているのを見ると、音楽も売れる可能性を秘めていると感じた。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

●映像の著作権というのは、映像は音楽以上に関わる人間が多いので、本当に複雑です。クリエイターになりたい若者の一人として、著作権の問題は常に頭に入れておきたいと思います。

立命館大学・映像学部・2 回生